

校成学園高等学校卒業式 学園長諭告

卒業生の皆さん、保護者の皆さま、本日は誠におめでとうございます。

校成学園を卒業される皆さんの心には、いま、先生方から教えを受け、研鑽し、友人たちと切磋琢磨しながら過ごしてきた日々の、笑顔や汗や涙に彩られたさまざまな思い出がよみがえっているのではないかと思います。生涯忘れることのできない青春の宝を胸に学び舎を巣立たれる皆さんに心からお祝いを申し上げ、ひと言、はなむけの言葉を贈りたいと思います。

これから、皆さんは、人生の新たな海原に漕ぎ出して行くことになります。希望に満ち、無限の可能性が広がっている世界です。さまざまな体験をする中で、うれしく感じることもある一方、つらく感じることもなどもあるでしょう。そして時には、自分には越えることのできないような壁に眼前を塞がれて、途方に暮れることもあるかもしれません。

そのような時のために、せっかく仏教にゆかりのある本校とご縁のあった皆さんに、心に留めておいていただきたいことがあります。それは、私たちに耐えられない試練はない、ということです。仏教的には、すべては仏さまの計らいであり、私たちに耐えられない試練を与えられることはない、と受けとめております。どんなに高いと思われる壁であっても、それを、自分を成長させるためのプレゼントであり、自分に必要なものだとして受けとめて、前向きに取り組んでいく姿勢こそが、その人の人生をつくり上げていく大切な要素となるのです。苦しいこと、つらいこともあるでしょうが、私たちは決して一人ではなく、力を貸してくれる人は必ずいるはずですし、真剣に取り組むことで、新たな知恵も浮かんでくるに違いありません。試練を受けとめ

て、前向きに人生と向き合っていく。そのような心で生きていくことができるたら、本当に一人ひとりがみんな個性を輝かせることができる、私は思います。今年は、東京でオリンピック、パラリンピックが開催される予定ですが、そのような選手だけでなく、私たち一人ひとりが自分の個性を輝かせていくということが、人生にとって大事であると思うのです。

幕末の九州・佐賀藩に、朱子学者の古賀穀堂（こがこくどう）という人がいました。名君と言われた鍋島直正の教育係を務めた人ですが、自らへの戒めや将来の抱負を綴った『自警』という書を遺しています。この中に「開闢以来の第一人のみ」という言葉があります。これは「自分は開闢以来の第一人になる」と、いうことをいわれたのです。開闢以来ですから、天地が開き、世界が始まって以来のただ一人、そういう人間になるのだということです。

よく考えてみますと、私たち一人ひとりが、実はみんな開闢以来のただ一人だといえるはずです。過去に自分は存在しませんし、いま世界の人口が七十億とも八十億とも言われておりますけれども、同じ人は二人といませんから。みんな、それぞれの個性を持った人間として存在しているわけであります。そのように受けとれば、みんなが開闢以来のただ一人ということが出来る、そういういのちをお互いさまにいただいているのであります。

何十億もの人間がいる中で、私たちが開闢以来のただ一人の人間として、自分の個性を発揮して人生を築き上げ、そして、それが世のため人のために尽くしていくことにつながれば、それは輝かしく、素晴らしい人生だということができると思います。それこそが、自分が自分として存在することの価値であると言えるのです。皆さんには、そのような人生を歩んでいただきたいといと願っております。

皆さんは、まだまだ若く、向学心も旺盛で、これから多くのことを学習し、身につけていくことでしょう。この「学習」の「習」の字は上の羽ははね、下の白はしろではなくて、鳥の胴体の象形文字であります。つまり習うという字は雛鳥が大きく、成長して巣離れする頃になると、親鳥のまねをして羽をひろげて翔ぶ稽古をする、そのかたちを表わした文字であることがわかります。私たちは何回も繰り返して学ぶことによって、大事なことを身につけていくことができます。そのような意味で、学んだことをしっかりと体得していくには、繰り返し、繰り返し学び、また習ったことを復習していくということが必要なのです。本来に、人間が学んだことを忘れないで身に付けるということは並大抵のことではありませんから、「学習」という文字を通して、そのことが教えられているということであります。

私は、この三月で八十二歳になりますが、人間として学ぶべきことがまだ無限にあると思っています。そういう意味では、人間は一生、学生であると思います。「学生」という言葉は、「学ぶことは生きること」と読めますし、「生きること学ぶ」と受け取ることもできます。皆さんも、若いうちからしっかりと、この「学習」の習慣を身につけて、「人生百年」ともいわれるこれからの時代を、力強く生き抜いてほしいと思います。

以上をもちまして、本日の卒業式にあたり、私のお祝いの言葉とさせていただきます。

皆さん、本日は誠におめでとうございます。

令和二年三月十五日

佼成学園学園長 庭野日鑠